

令和2年9月定例会 経済委員会（付託）

令和2年9月24日（木）

〔委員会の概要 労働委員会関係〕

南委員長

ただいまから、経済委員会を開会いたします。（10時33分）

直ちに、議事に入ります。

これより、労働委員会関係の調査を行います。

労働委員会関係の付託議案はありませんが、この際、理事者側から報告事項があれば、これを受けることにいたします。

脇田労働委員会事務局長

報告事項はございません。

どうぞよろしくお願いいたします。

南委員長

それでは、これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

西沢委員

コロナ禍で大変な時代です。会社においても、休職、解雇、倒産などいろんなことがこれからも増えてくるのではないかと思います。

前も聞きましたけれども、そのような中であって、新型コロナウイルス感染症関係の労働事件は増えていないということでしょうか。

倉橋調整課長

コロナ禍における労働相談の件数等をお尋ねかと思えます。

労働委員会に寄せられている労働相談は4月以降で79件ございます。そのうち新型コロナウイルス感染症を起因とする相談は6件となっておりまして、それほど多くはないという感触を持っております。

西沢委員

先ほど言いましたように、会社を休職するなどこれからもまだまだいろんなことが増えてくると思います。今のところ6件でそれほど多くはないという気がするのですが、この6件という数についての分析などはされていますか。

倉橋調整課長

現在のところ6件という相談件数になっておりますけれども、現時点では企業のほうでも雇用調整助成金をはじめ各種給付金などの支援施策を活用いたしまして、企業経営の存続、社員の雇用維持という形で努力されているといういろいろお聞きしております。ただ、経

済情勢の悪化が進めば雇用情勢も更に厳しくなってしまうので、労働委員会に寄せられる労働相談も増えてくると考えております。

西沢委員

考え方はいろいろあると思います。主な原因が新型コロナウイルス感染症関係だったとしたら、責任を誰に持っていくのかは非常に難しいです。普通は、相手が人だ、会社だという中で、いろいろないざこざで労働事件が発生しますが、原因が新型コロナウイルス感染症だとしたら、どこに持っていくのかは非常に難しいでしょうね。これから会社関係がどんどん悪化する中で、どのようになるのかはよく分らないです。それでも労働事件がどんどん出てくるのかどうかはよく分らないですけれども、これからどうなっていくのだろうという分析をする中で、前もって対応策をやっておく。どんどん増えてきた中では対応策がとりにくいかもしれませんから、分析も大切なのではないかと思います。

南委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、労働委員会関係の調査を終わります。

議事の都合により休憩いたします。（10時38分）